

ICT を活用した効率的かつ印象的な校内研修の実践について

竹中 葵
養護科学コース

1. 研究の背景と目的

近年、肥満・痩身、ストレスによる心身の不調、アレルギー疾患の増加、性に関する問題など子どもの健康課題は多様化・深刻化¹⁾している。令和4年12月に改訂された生徒指導提要²⁾において、虐待、自殺、中途退学、不登校、インターネット・携帯電話に関わる問題、性的マイノリティーなど性に関する課題が付け加えられ、これらに対して発生後の個別対応だけではなく、未然防止、早期発見、早期対応、関係各機関との連携が求められるようになった。従来行われてきたAEDの使用法や心肺蘇生法、エピペンの使用方法といった救急対応だけではなく、健康課題や子ども達のニーズに応じた適切な対応と指導が求められる。しかしながら、教員養成の段階で学校保健に関する授業科目について学ぶ機会がない³⁾などにより、保健・安全による資質・能力には個人差がある。2021年に行った杉崎らの研究⁴⁾によると、養護教諭が一般教員の対応で課題があるとした内容として、「心のケア」「応急手当」「発達障害」があがった。子どもたちへの対応として教職員の不安だと感じる分野を明らかにしながら、子どもたちのニーズに対応できる校内研修を実現していく必要があると考える。校内研修の充実をさせたい反面、教員の多忙化は社会問題となっているように時間を確保するのも難しいため、研修内容の充実と効率の良さが重要視されると考える。

一人一台端末の使用など、GIGA(Global and innovation gateway for all)スクール構想の開始や新型コロナウイルス流行拡大も相まって、学校教育においてもICT (Information and communication technology) を活用した指導が進んでいる⁵⁾。一方で、大川らの研究⁶⁾によると養護教諭のICTの活用指導力は経験年数や校種によって差があるという結果が出ている。また、2022年4月以降入学者には教育課程においてICTを活用した教育に関する履修が組み込まれているが、中学校・高等学校の教員免許(保健)を取得しない養護教諭免許状のみを取得する場合にはカリキュラムに含まれない。

そこで、「教員の保健・安全による資質・能力の向上のための校内研修」と、「ICT活用の推進」を掛け合わせて、ICTを活用しながら教員にとって短期間の実施であっても印象に残る校内研修を実施できないかと考えた。本研究では、教員の学校保健に関する校内研修や、緊急時の対応に対する意識を明らかにしながら、ICTを活用した校内研修の実施による介入研究を行い、教員にとってよりよい校内研修の在り方について検証していく。

2. 研究方法

茨城大学教育学部附属中学校教員 計25名に無記名自記式質問紙調査①(実施期間:令和5年11月10日~令和5年11月30日)を依頼し、21名の回答が得られた。その後、ICTを活用した「自殺防止」に関する校内研修を実施(令和5年12月15日~令和6年1月12日)した。期間

中、教職員用 PC の共有ファイルに資料をアップロードし、自由に閲覧可能とした。無記名自記式質問紙調査①に回答いただいた 21 名を対象に、校内研修受講後、無記名自記式質問紙調査②（令和 5 年 12 月 15 日～令和 6 年 1 月 12 日）を依頼し、13 名の回答が得られた。

質問紙調査では無記名で行い、回答した個人が特定されないこと、研究結果は研究目的以外で使わないこと、回答は強制ではないことを書面にて伝えた。回答があった場合に同意を得たと判断した。分析は、SPSS29.0 と Microsoft Office Excel2016 を用いた単純集計を行った。

3. 結果及び考察

1) 校内研修の実施と緊急対応の自信の有無

これまでに参加したことがある校内研修の内容について問うと、発達障害 7.9%，窒息対応 0%，過換気症候群対応 0%，起立性調節障害 3.2%，摂食障害 1.1% で、これらの項目の実施が少ないことが分かった。また、研修の実施が少ない項目に対して、「自信あり」が少なく、「自信なし」が多い傾向がみられた。校内研修の実施の機会を幅広く実施できていないこと、子どもの発達段階や障害の有無など学校種などによって、教職員に求められる子ども達への緊急時の対応能力が異なることが考えられる。

2) 最も身につけるべきと考える項目と実施の機会

子ども達への対応として最も身につけるべきと考えるものとして、AED の使用方法・心肺蘇生法 28.6%，メンタルケア・心のケア 23.8% が多く挙げたが、これまでの勤務校での校内研修で「AED の使用方法・心肺蘇生法」は 18.9% と項目の中で 1 番実施の機会が多かったのに対し、メンタルケア・心のケアは 11.6% と、熱中症対応 14.7%，感染症対応 13.7%，アレルギー対応 17.9% より実施の機会が少ないことが分かった。教職員が身につけたいと思っている項目に対して、研修が実施できていないと言える。

3) ICT を活用した校内研修について

校内研修に ICT を用いて実施するメリットとして、「気になった時や必要なタイミングで確認・復習ができる」「各自空いた時間に研修を受講することができる」「自身にあったスピードで進められる（一時停止してメモをとることが可能）」といった受講の機会や進捗の自由度がある点や「リラックスして受講できる」といった受講環境に対する点が多く挙げた。

一方、校内研修に ICT を用いて実施するデメリットとして、「研修中に職員同士で内容の確認や共有が難しい」といったその場ですぐ確認を取ることができない点や、「緊張感がなくなる」という受講態度の変化、視聴だけでは受け身となり「リアリティに欠ける」といった点が多かった。

4) 希望する校内研修の受講形態

学校保健に関する校内研修の実施形態の希望としては、対面形式と ICT を活用したオンライン・オンデマンド形式を併用したハイブリット型を希望する人が約 7 割と多かった。全ての校内研修に ICT を活用したものへと移行していくのではなく、限られた時間の中で融通を利かせるこ

とが可能な ICT を活用すべき場合と、緊急時の対応を緊張感やリアリティを感じながら練習ができる対面形式を併用することを教職員は求めている。ICT を活用した校内研修実施後の感想として、動画を活用した研修を求める声があがった。情報を集約する際には文章をまとめたものを掲示するよりも、動画など視覚的に動きのあるものを掲示した方が参加者側は求めている。

4. 総括

子どもの発達段階や障害の有無などによって、教職員が求められる子ども達への緊急時の対応能力は学校種によって異なる。また、教職員が緊急時の子ども達への対応の身につけたいと思っている項目に対して、充実した研修が実施できていないということが今回の研究で分かったことから、養護教諭は、学校の実態や児童生徒の特徴を考慮し、教職員の緊急時の対応能力や研修の希望を把握した上で、校内研修を企画・実施する必要がある。

ICT を活用した校内研修は、これまで研修の時間が確保できず、実施できなかった内容に対して、情報提供を行うことで教員個人が不安視する子ども達への対応を個人で確認することができる。また、研修の機会も授業時間のない空き時間などに自由に設定が可能なので、従来よりも実施の頻度を増やせる可能性がある。

ICT を活用した校内研修では、「研修中に職員同士で内容の確認や共有が難しい」「緊張感がなくなる」「リアリティに欠ける」というデメリットもあることから、緊急時の対応を緊張感やリアリティを感じながら練習ができる対面形式も残しつつ、限られた時間の中で受講可能な ICT の活用を推進していくべきだ。

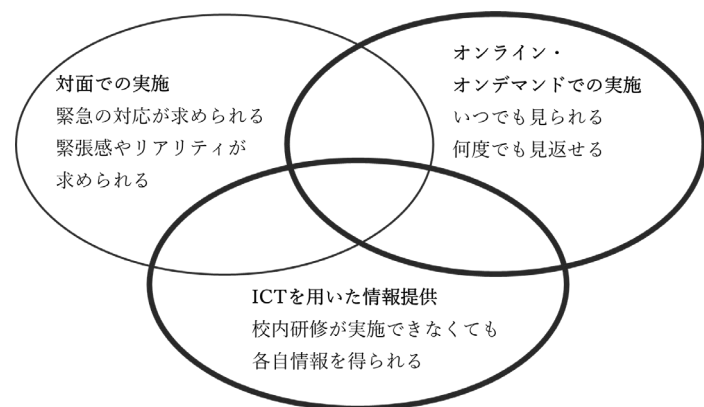


図1. ICT を活用した校内研修の可能性

具体的には、AED の使用方法・心肺蘇生

法、エピペンの使用方法などのアレルギー対応、窒息対応といった緊急時の対応に緊張感やリアリティに緊張感が求められるものは対面で実施し、場合によっては録画し見返せるように保存しておく。AED の使用方法・心肺蘇生法、エピペンの使用方法などのアレルギー対応、窒息対応などの研修においては、体験するだけでなく、場所、時間を設定したシミュレーション訓練が実施できるのが望ましい。

吐物処理などの感染症対策、応急手当の対応は動画を撮影しオンデマンドで確認できるようにする。これらは、感染症の流行時期や、けがの多い運動会や球技大会、養護教諭が同行できない校外学習など、季節性や学校行事を考慮しながら実施すべきである。

メンタルケア・心のケア、発達障害、過換気症候群、摂食障害は在校児童生徒のニーズに応じて、知識・技術を身につけることができるよう情報提供を行う。ICT を用いたオンデマンドの研修や情報の提示は、大規模校などの教員数が多い学校で職員が集まれる機会を設定できない場合に有効だと考える。

教職員に対する校内研修の一例として「Kahoot！」⁸⁾を用いたものを考えた。「Kahoot！」とは、クイズ作成アプリケーションであり、出題者が問題を作成すると数字6桁のPINコードとQRコードが発行され、参加者はPINコードの入力またはQRコードを読み取ることで問題に参加することができる。参加者は自身の端末で答えを選択することで、出題者側に解答が送られる。参加者の解答までの速さや解答の正確さによって点数が変わり、合計点数を競い合うことができる。出題者は、問題ごとに写真を入れることができ、4択問題や2択問題など自由に選択がすることができる。「Kahoot！」を用いると5分程度で出題及び解答が可能になるので、職員会議のあとにミニ校内研修として活用が期待でき、校内研修の機会を増やし、研修のバリエーションの充実に繋げることができるだろうと考える。

5. 謝辞

本調査を実施するにあたり、調査へのご理解とご協力を賜りました茨城大学教育学部附属中学校の校長及び養護教諭、教職員の皆様へ心より感謝申し上げます。

6. 引用文献

- 1) 中央教育審議会 (2008) :
子どもの心身の健康を守り、安心安全を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について (答申)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/icsFiles/afieldfile/2009/01/14/001_4.pdf (2024/1/29)
- 2) 文部科学省生徒指導提要 (令和4年12月改訂) :
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm
- 3) 教育職員免許法 (2017) :
<https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=324AC0000000147>
- 4) 杉崎 弘周ほか (2021) :
学校における保健・安全に関する対応場面での課題と教員養成段階での教育の必要性 : 養護教諭への全国調査の結果から (体育学研究 66 巻, pp.623-630)
- 5) 文部科学省 (2019) :
子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～《文部科学大臣メッセージ》
https://www.mext.go.jp/content/20191225-mxt_syoto01_000003278_03.pdf (2024/1/29)
- 6) 大川尚子ほか (2023) :
養護教諭に求められる ICT 活用指導力
(京都女子大学教職支援センター研究紀要 第5号 pp.13-20)
- 7) 日本養護教諭関係団体連絡会 (2022) :
「養護教諭や保健室におけるパソコン環境や ICT に関する調査報告書」
<https://jytaal.org/wp/wp-content/uploads/2022/01/R40112tyousahoukokusyo.pdf> (2024/1/29)
- 8) Kahoot !
<https://kahoot.it/>